

## 子宮膿腫ニ於ケル體部粘膜重層上皮ニ就テ

岡山醫學士

光 井 貞 八

### (一) 緒 論

子宮體部粘膜ニ於テハ扁平重層上皮ノ發現ニ關シテハ、ソノ本態ニツキ從來幾多ノ諸説アリ。内膜炎ニ際シテ往々扁平上皮ノ發現ヲ信ジソノ六十三例ヲ集メ得タリトナス Zeller ト粘膜息肉及ビ子宮内翻症ノ場合ヲ除キテハ子宮粘膜ノ圓柱上皮ノ扁平重層上皮ニ變移スルコトハ極メテ稀有ナリトナス説トノ兩極端ノ間ニハ多數學者ノ意見ノ存スルモノナリ。Hitschmann ハ子宮體部及ビ頸部粘膜ニ於テハ癌性變化ヲ除外シテ他ニ扁平上皮ノ發現スルコトナシト斷言セシト雖モ而モ多クノ學者ニ從ヘバ良性傾向ヲ有セル上皮ノ變形ノ存在シ得ルコトハ疑ナキガ如シ。前者即チ癌性變化ノ場合ノ進行的ナルニ比シテ後者ハ常ニ靜止的ナリ。故ニ子宮體部粘膜ニ發現スル扁平重層上皮ヲ惡性即チ癌性及ビ良性ノ二種ニ區別スルコトヲ得ベシ。

### (二) 良 性 ノ モ ノ

良性ノ性質ヲ有スルモノハ Gebhard ノ説クガ如ク癌性ノモノニ比シテ (1) 變化ハ單ニ表在ニ留マリ (2) 決シテ著シキ厚サニ達スルコトナク (3) 且ツ深部ニ侵入スル細胞巢ノ缺如等ノ特質ヲ有スルモノナリ。

多クノ文獻ニヨリテ考察スルニ子宮腔内ニ發生スル良性扁平上皮ハ主トシテ圓柱上皮ヨリ變性 (Metaplasie) セルモノノ如シ、其ノ原因トシテハ種々ナルモノヲ考ヘ得ベキモ長時ニ亙ル慢性ノ刺戟狀態ハソノ主ナルモノナリ。其ノ刺戟トシテハ機械的、化學的又ハ細菌的ナリト云フ。

子宮粘膜上皮ノ生理的狀態ニ於テモノノ形態ヲ變化スルコトアルハ既ニ明ラカナル事實ニシテ G. Klein ノ統計ニヨレバソノ機能ニ依リ、又ソノ生理的壓迫ニヨリ、且ツ妊娠及ビ年齢ニ依リ變化シ得ルモノナリト云フ。併シ重要ナルハ病的變化ニヨリテ子宮粘膜ノ圓柱上皮ノ扁平上皮ニ變性スルモノナリ。之ヲ説明スルニ芽胞迷入説、芽胞遺殘説ヲ以テセントスル者アルモ往々圓柱上皮ト扁平上皮トノ種々ナル移行型ヲ見ルヲ以テスレバ此ノ説モ俄カニ信ズベカラズ、

更ニ子宮内装作，例ハ消息子挿入，内膜搔爬等ニ際シテ子宮腔内ニ生ゼル新傷面ニ子宮腔部ノ扁平上皮ノ侵入移行スルモノナリトナス者アレドモ何等接觸ヲ經ズシテ扁平上皮ノ發現ヲ見ルコトアルヲ見レバ此モ亦疑ハシキモノトセザルベカラズ。

Bondi ハ側子宮膿腫 (Pyometra lateralis) ニ於テ扁平上皮ヲ發見セル二例ヲ報告セリ。ソノ一例ハ二十四歳ノ未婚婦，他ハ二十三歳ノ家婦ニシテ共ニ頸管部竝ニ體部粘膜ノ上層ハ所々僅カニ原形ノ圓柱上皮ヲ認ムルニ過ギズシテ其ノ他ノ部分ハ全部數層ノ扁平上皮ヲ呈シ部位ニヨリテハ腔壁ノ重層扁平上皮ニ酷似スルノ像ヲ呈セリ。而シテ彼ハ患婦ノ若年ナルコト又既往症ニ於テモ臨牀上ノ所見ニ於テモ癌腫ヲ疑フベキ點ヲ見ザルコト，組織的ニ於テモ癌腫ノ如キ非定型即チ間接核分裂，活潑ナル細胞ノ増殖，癌性眞珠，上皮細胞ノ深部侵入等ノ缺如ニヨリテ癌腫ヲ否定シ其ノ原因トシテハ即チ其ノ際存在シタル所ノ子宮膿腫ヲ擧ゲタリ。即チ長時ニ互リテ停滯セル内容物ニヨリテ上皮ハ先ヅ消滅ニ歸シ次デ内容ノ一部漏出セラレ内壓ノ少シク低下セル時上皮ノ再生ヲ起シソノ際圓柱上皮ノ再生セラレズシテ扁平重層上皮ノ生ゼルモノナリト斷案セリ。

Friedländer ハ猩紅熱ニ腎炎ヲ併發シテ死シタル五歳ノ少女ノ剖見ニ於テソノ子宮後壁ノ内子宮口直上部ニ於テ扁平上皮層ノ限局性ニ存在セルヲ認メソノ原因トシテ猩紅熱ニヨリテ起レル子宮粘膜ノ出血ヲ擧ゲタリ，即チ出血ニヨリテ落脱セル上皮ノ缺損部ノ新タニ扁平上皮ニヨリ覆ハレタルモノナリ。

Sitzfrey ハ二箇年間ニ互リテ觀察セル患者ノ内膜搔爬ニ於テ扁平上皮ヲ認メ是ヲ長時日持續セル慢性炎性症狀ノ刺戟ニ歸セリ。

Zeller ハ搔爬術ヲ行ヒテ得タル多數子宮内膜ノ研究ニ於テ慢性内膜炎ニ於テハ比較的屢々扁平重層上皮ノ發現ヲ經驗スルモノナリトナセシモ Gebhard ハ詳細ナル觀察ニ於テ Zeller ノ説ニ疑義ヲ插メリ。即チ Zeller ノ上述ノ所見ノ多クノ材料ハ子宮腔内装作後腔内洗滌液中ヨリ得タルモノニシテ斯ノ如キ場合ニ於テハ扁平上皮ト誤認シ易キ組織混入シ易ケレバナリ。

Henge ハ四十四歳ト四十九歳トノ二例ノ患者ニ於テ子宮粘膜上皮，加之一例ニ於テハソノ腺上皮モ良性ノ性嚢ヲ有セル重層ヲ發見シタリト雖モソノ原因トシテハ何物ヲモ擧ゲ得ザリキ。

Lubarsch ハ實驗的ニ家兎ノ膀胱内ニ孤立セル Metaplasie ヲ作ルコトニ成功

シ Gustav Futterer ハ扁平上皮ニ類似セル Metaplasie ヲ家兎胃壁ニ實驗的ニ成功セリト云フ。即チ彼ハ噴門ニ近キ胃壁粘膜ヲ約二糎平方切除シ、然ル後「ヘモグロビン」ヲ破壊スル作用アル Pyrogallus-säure ヲ注射シテソノ缺損部ノ治癒ヲ妨害遅延セシメ此ノ目的ヲ達シタリ。

尙ホ子宮以外ノ機管ニ於テ上皮ノ變ジテ扁平重層上皮ニ變性セル例ヲ求メンニ上方ニ於テ狭窄セラレタル尿道ニ於テ、輸尿管ニ於テ又膽囊ニ於テ見ルモノノ如シ、Mc. Kenzin 氏ハ氣管枝肺炎ニ際シテ氣管内扁平上皮ノ發現ヲ見、コレヲ氣管内ニ蓄積セル分泌物ノ壓ニヨル刺戟ヲ以テ説明セントセリ。

### (三) 惡性ノモノ

普通子宮體部癌腫ハ病理解剖上二種トナスヲ得ベシ、即チ第一型ニ屬スルモノハ子宮腺ノ過度ノ増殖ニシテ第二型ニ屬スルモノハ子宮腺腔ノ増大ヲ起シ次デ腔内ニ細胞ノ充滿ヲ來スモノナリ。然ルニ 1887 年 Piering ノ非定型的子宮癌形成トシテ子宮體部ニ原發セル扁平上皮癌ノ一例ヲ報告ナセシヨリ之ニ類似ノ報告研究相次グニ到レリ。即チ彼ノ例ハ五十四歳ノ一患婦ニテ子宮體部内ニ雞卵大ノ著明ナル扁平上皮癌ヲ有シ子宮腔部後唇ニ於テ出血性ノ轉移ヲ有セシモノナリ。Gebhard ハ體部ノ扁平上皮癌ヲ原發性竝ニ續發性トニ分類シ後者ハ前者ニ比シテ比較的屢々遭逢スルモノニシテ多クハ頸部癌ノ子宮腔内ニ傳播擴充スルモノナリト云フ。凡テ斯クノ如キ惡性ノモノハ活潑ナル増殖ヲ示シ、上皮ハ深部ニ侵入スルノ傾向ヲ有シ、細胞ニ於テハ明ラカニ「ミトーゼ」ヲ認メ得ルノミナラズ時トシテ角化層ヲ示シ癌眞珠ヲ有スルモノナリ。

Benckisser ハ原發性頸部癌病竈ヲ有セル患者ニ於テ子宮腔内全般ニ互リテ癌性上皮ノ被膜ヲ被レル一例ヲ報告シ Hofmeier モ亦明ラカニ此ノ種ニ屬スル一例ヲ述ベタリ。Gebhard ノ報告セル一例ハ子宮出血ヲ主訴トスル六十六歳ノ一患者ニシテ之ニ試驗的内膜搔爬ヲ行ヒソノ顯微鏡的検査ニ於テ明瞭ナル癌眞珠ヲ有セル扁平上皮癌ヲ認メ、手術後摘出子宮ヲ檢スルニ子宮腔内ハ惡臭アル濃厚ナル膿汁ヲ以テ充滿セラレ前面ノ内面及ビ底部粘膜ハ一般ニ破碎セラレ灰白色ノ小ナル腫瘤突出ス、後壁内面ハ微細顆粒狀ヲ呈シ内子宮口部ニハ狭窄アリテ之ガ爲メニ腔内ニ膿汁鬱滯ヲ來セシコトヲ示シ、子宮腔部ハ老人性萎縮ヲナシ滑澤ニシテ糜爛ヲ見ズ。體部粘膜ノ小腫瘤ノ顯微鏡的所見ハ全然定型的扁平上皮癌ノ像ニ一致ス、即チ比較的少量ノ結締組織間質ノ間ニハ大小不同ノ所々

互ニ交通セル扁平上皮細胞索ヲ示シソノ中央ニ於テ癌眞珠ヲ認メ一般ニ細胞ニ於テハ間接核分裂ヲ示ス即チ原發性子宮體部扁平上皮癌ナリトナセリ。

尙ホ Hraus, Schauenstein 等モカクノ如キ數例ニ遭逢シ Gebhard ノ説クガ如ク子宮體部ニ扁平上皮癌ノ原發スル場合ト續發性ニ生ズル場合トノ區別アルコトヲ認容セリ。

#### (四) 實驗例

患者 安○よ○ 五十八歳 農業。

初診 大正十二年四月二十一日。

既往症 遺傳的ニ認ムベキモノナシ十六歳ニシテ初潮シ反覆正調、三乃至五日間持續ス。正常分娩ヲ經過スルコト六回、夫ト共ニ花柳病ヲ識ラズ、四十三歳ニシテ經歇シ爾來何等ノ障碍ヲ覺エズ、健康ニシテ家事ニ從事ス。

現訴 然ルニ三年前少量ノ子宮出血ヲ見タルモ別ニ意ニ介セザリシニ昨年更ニ二、三回ノ出血アリ、更ニ本年ニ入りテ數回ノ子宮出血アリテ特ニ最近一箇月前ヨリハ斷續的ニ子宮出血持續ス。尙ホ本年ニ入りテ惡臭アル帶下ニ苦シム。尿意及ビ便通ニ異常ヲ感ゼズ。

主訴 子宮出血。

現症 之ヲ觀ルニ體格中等、皮下脂肪組織發育良好、皮膚ニ輕度ノ貧血アリ。脉搏八〇乃至九五、正常ニシテ緊張モ亦佳良、肘部、頸部淋巴腺ニ腫脹ナク胸部臟器ニ變化ナシ。體温ハ三十六度五分乃至三十七度二分ノ間ヲ往來ス。

腹部ニ壓痛及ビ抵抗ヲ認メズ。肝脾ニ腫脹ナシ。

内診所見 子宮腔部ハ肥厚ニシテ表面凹凸不平粗糙ニシテ脆弱ナリ、指端ヲ以テ接觸スレバ容易ニ出血ス。外子宮口ハ橫裂シ著シキ開大ヲ認メズ。體部ハ後傾シ稍々大ナリ。血性惡臭アル分泌物多量、右ノ骨盤結締織ニ輕度ノ浸潤ヲ認ムレドモ左側ニハ之ヲ觸レズ。

膀胱鏡所見 輸尿管開口部ハ著シク括約筋ニ近接シテ存在シ、左側輸尿管開口部ヲ視野ノ中央ニ持チ來タメバソノ視野ノ下方、括約筋ノ爲メニ暗黒トナル。右側輸尿管ハ左側ノモノニ比シテ少シク括約筋ヨリ離レテ存在シソノ周圍ハ輕度ニ水腫樣腫脹ヲ呈ス。一般ニ少シク索狀膀胱ヲ認メ後壁ニ於テ擴張セル靜脈ヲ見ル。胸筋内ニ〇・四%「インゲゴカルミン」二〇c.c.ヲ注射シテ腎機能ヲソノ排洩關係ニ見ルニ左側輸尿管開口部ヨリハ六分三十秒、右側ヨリハ七分ニシテ著明ニ色素ヲ排出スルヲ見ル。

診斷 手術可能性子宮腔部癌腫。

入院 大正十二年四月二十日。

手術 四月二十六日。

腹壁消毒ハ沃度丁幾及ビ「アルコール」ヲ以テシ、腔消毒ハフユールアインゲル氏法ニヨル。麻酔ハ「トロパコカイン」〇・〇八瓦ノ腰髓麻酔及ビ「パントボン、スコホラミン」一・〇瓦ノ前注射ヲ以テシ

安藤教授執刀ノ下ニ行フ。

開腹所見 子宮體部ハ後傾シ大ニシテ妊娠第三箇月大ヲ呈シ硬度ハ蠶繭様軟ナリ。右側骨盤ノ結締織ニ輕度ノ浸潤ヲ見ル。兩側卵巢及ビ喇叭管ニ特記スベキ變化ヲ觀ズ。

仍テ安藤氏法ニ依リテ擴汎性子宮全別出術ヲ施行ス。其ノ際増大セル子宮體部ヲ壓迫セル爲メ腔ニ向ヒテ多量ノ濃厚ナル淡黃白色且ツ惡臭アル膿汁ヲ壓出ス。是ニ於テ増大セル子宮體部内ニハ膿汁ヲ以テ充滿セルヲ知ル。仍テ再ビ腔ヲ清洗消毒シテ手術ヲ續行シ終リニ「エーテル」ヲ以テ腹腔ヲ清拭シ「ドレナーツ」ヲ腔ニ導キ腹腔ヲ閉鎖ス。

手術後経過 手術後第一日ヨリ輕度ノ腹膜炎ノ症狀アリ。加之脉搏頻數ニシテ一〇乃至一三〇ヲ算ス強心藥注射。生理的食鹽水注入。「エレクトラルコール」注射ヲ行フ。術後第三日ニ「ドレナーツ」ヲ拔除シ第八日ニ拔絲ス。此頃ニ到リテ體溫三十八度乃至三十八度九分ヲ施張シ陰盲端ヨリハ膿ヲ排出ス。第十一日ニ腹壁手術創ヲ哆開シ多量ノ膿ヲ出ス。脈漸ク良好トナリ九〇乃至一〇〇。體溫モ三十七度前後トナル。爾來腔洗滌。膀胱洗滌ヲ行ヒ手術後第二十四日ヨリ僅カニ尿ヲ自利スルニ到ル。漸次腔端ヨリノ排膿モ減少シ腹壁創面モ清淨ニ赴キ術後第五十日ニテ腹壁創面ハ全ク治癒シ腔端ヨリノ膿ノ漏出モ著シク減少スルニ到レリ。

手術後第二十六日ニ膀胱鏡検査ヲ行フニ三角部及ビ底部ハ著シク水腫様腫脹ヲ呈シ、ソノ他ノ部分ハ一般ニ甚シク溷濁ス。其ノ後漸次自尿充分トナリ尿モ亦比較的清澄トナリ第六十日ニ於テハ前同ノ所見著シク輕快セルヲ見ル。

斯クテ手術後第七十日ニ輕度ノ膀胱炎ヲ認ムル他ニ何等ノ障碍ナクシテ退院ス。

別出子宮所見 長徑一二釐。最大周圍一四釐。柔軟ニシテ體部ヲ壓迫スレバ外子宮口ヨリ膿汁ヲ漏出ス。子宮腔部表面ハ粗糙ニシテ組織脆弱ナリ。今是ヲ截開スルニ體部腔内ニハ淡黃色濃厚ナル膿汁充滿シテソノ量約 c.c. ナリ。從テ體部内腔ハ擴張シ體部壁ハ比較的薄シ。子宮頸管ハ著シク硬固ニ浸潤シ且ツ狹窄シ擴張セル體部内腔トハ比較的明瞭ナル境界ヲ以テ移行ス。膿汁ヲ注意シテ洗ヒソノ粘膜炎ヲ見ル汚穢暗赤色ニシテ肉眼的ニ特別ナル變化ヲ認ムルコト能ハズ。

顯微鏡的所見 子宮腔部組織ハ定型均ナル重層扁平上皮癌腫ノ像ヲ呈ス。

頸部ニ於テハソノ粘膜炎並ニ筋層ノ全汎ニ互リテ大ナル癌細胞巢存在シ。粘膜炎ニ於テハ固有ナル頸部腺ハ全ク影ヲ留メズ。ソノ筋層ニ於テハ漿液膜ニ到ル全部ニ細胞巢侵入シ固有ナル筋層ハ菲薄ナル索狀様ノ觀ヲ呈ス。全般ニ於テ著シク小圓形細胞ノ浸潤ヲ見ル。漿液膜ニハ變化ヲ認メズ。

體部粘膜炎ニ於テハ二ツノ重要ナル變化ヲ認ムルモノニシテ一ツハ頸管ニ移行セントスル内子宮口ノ直上部ニ於ケル上皮ニシテ他ハ凡テ體部粘膜炎ノ所々ニ島嶼狀ニ散見スル上皮ノ變化ナリトス。

一般ニ粘膜炎ハ菲薄萎縮性ニシテ子宮腺ハ或ハ消失シ或ハ萎縮シテ完全ナルモノヲ見ズ。間質ニハ著シキ小圓形細胞ノ浸潤ヲ見ル上皮ハ或ハ脱落シテ之ヲ缺損シ或ハ僅カニ單層ノ原形ヲ留メ或ハ下述スルガ如キ異形ヲ呈ス。筋層ニ於テハ小圓形細胞ノ浸潤ヲ所々ニ於テ認ムレドモ特別ナル變化ヲ見ズ。

内子宮口直上部ノ粘膜炎即チ狹窄セル頸管ニ接續セル體部粘膜炎ノ上皮ハ正常ノ單層圓柱上皮ヲ見ルコト能ハズシテ却テ著シキ層ニ達スル重層上皮ノ像ヲ呈ス。細胞ノ基底部分ニ於ケルモノハ大ニシテ稍

圓形、中ニ圓形又ハ橢圓形胞狀ノ核ヲ有シ表層ニ到ルニ從ツテ細胞ノ排列不規則トナル。上方ニ向ヒテハ漸次不規則ナル單層上皮ニ移行シ下方ハ狹窄セル頸管ノ部ニテ癌細胞巢ニ連續セルコトヲ認ムルヲ得。

細胞ハ一般ニ癌細胞ニ酷似シ基底部分ニ於ケルモノハ核分裂旺盛ニシテ「ミトーゼ」ヲ認ム、併シ腺管竝ニ腺腔ニ向ツテ増殖侵入スルノ傾向ヲ見ルコト能ハズ、表層ニ於テハ角化層ナク不規則ナル狀態ヲ呈ス、斯クノ如キ變化ハ體部粘膜ノ多クノ場所ヲ注意シテ檢索スルモ他ノ部分ニ發見スルコト能ハズ。

第二ノモノハ上記ノ重層上皮トハ全く無關係ニ體部粘膜ノ到ル所ニ極メテ小ナル島嶼トシテ散見スルモノニシテ三層乃至六、七層ノ上皮細胞ノ重疊ナリ。此ノ場合、周圍ノ單層上皮ヨリ移行シ又ハ上皮ノ脱落セル部分ニ於テ大ナル核ヲ有スル上皮細胞ノ數層ニ重疊シ以テ不規則ナル扁平重層上皮ヲ形成セルモノナリ。斯クノ如キモノニ於テハ上述ノ場合ニ反シテ全く深部ニ侵入スルノ傾向ナク又「ミトーゼ」ヲ認ムルコトナシ。

### (五) 本實驗例ニ對スル考案

1. 本實驗例ニ於テハ、子宮腔部ニ於ケル重層扁平上皮癌ハ頸部組織ヲ犯シ爲メニ頸部組織ノ硬固ナル浸潤ノ爲メニ頸管狹窄セラレ是ニ因ツテ子宮腫脹(Pyometra)ヲ形成セシモノナリ。而シテ子宮腫脹ハソノ成立以來比較的長時日ヲ經過セルモノノ如クソノ爲ニ體部内腔ハ著シク擴張シ子宮體部ハ妊娠三箇月子宮大ノ増大ヲ來タセルモノナリ。

2. 長時日體部腔内ニ鬱滯セル膿汁ハ慢性刺戟ヲ粘膜ニ及ボシ爲メニ粘膜ハ萎縮シ、子宮腺ヲ壊滅セシメ上皮ノ剝離脱落ヲ來シタルモノナリ。而シテ一度剝離脱落セル上皮ハ或ル機會ノ下ニ更ニ再生セラレソノ際單層圓柱上皮ノ再生セラレズシテ重層上皮ノ生ゼシモノノ如シ、斯ノ如キモノハ前述セル Boudi ノ例ニ於テ見ルモノニシテ彼ニ於テモ亦ソノ際存在セシ子宮腫脹ノ原因トナルモノナリ。故ニ體部粘膜ノ所々ニ於テ見ル數層ノ重層上皮ハ何等ノ惡性的傾向ヲ示スコトナク變化ハ只單ニ表層ニ留マルモノナリ。

3. 内子宮口直上部ニ於テ見ル所ノ體部粘膜ヲ被フ夥シキ層ニ達スル重層上皮ハ子宮頸部ニ波及セル扁平重層上皮癌ノ粘膜ノ表層ヲ傳ヒ表面のニ體部腔内ニ傳播セルモノト思考スルニトヲ得。故ニソノ旺盛ナル細胞増殖ヲ示シ間接核分裂ノ像ヲ認ムルハ癌腫ノ性質ヲ示スモノニシテ子宮體部ニ於ケル續發的重層扁平上皮癌ト認ムルコトヲ得。

### Literatur.

- 1) **Bondi**, Über das Vorkommen von Plattenepithel bei Pyometra. Gyn. Rundschau, 1908.
- 2) **Berka**, Zur Frage sog. Psoriasis uteri. Zeitschr. f. Gyn. Bd. LXI.
- 3) **Kraus**, Über Wucherungen in Corpusepithel bei Zervixcarcinom. Zeitschr. f. Gyn. Bd. LIV.
- 4) **Benkiser**, Über einen seltene Art von sekundärem Carcinom am Uteruskörpers. Zeitschr. f. Gyn. Bd. XXII.
- 5) **Schauenstein**, Ein Beitrag zur Lehre der von der Schleimhautoberfläche der Corpushöhle ausgedehendem Carcinom. Gyn. Rundschau, Bd. I.
- 6) **Sitzenfery**, Über Mehrschichtiges Plattenepithel der Schleimhautoberfläche des Uterus benignen und malignen Charakters, zugleich ein Beitrag „Zur Lehre von der Kaufmann-Hofmeier-schen Krebsvariation.“ Zeitschr. f. Gyn. Bd. LIX.
- 7) **Zellers**, Plattenepithel im Uterus. Zeitschr. f. Gyn. Bd. XI.
- 8) **Schauenstein**, Ein Beitrag zur Frage der Entstehung der Plattenepithelkarzinome der Schleimhautoberfläche des Uterus auf Grundlage einer sog. Psoriasis uteri. Gyn. Rundschau, Bd. I.
- 9) **Hengge**, Beobachtungen von gutartiger Mehrschichtung des Epithels im Corpus uteri. Monatschr. f. Gyn. Bd. XV.
- 10) **Gebhard**, Über die vom Oberflächenepithel ausgehenden Carcinomformen des Uteruskörpers sowie über den Horukrebs des Cavum uteri. Zeitschr. f. Gyn. Bd. XXIV.